

一〇二二年二月二十四日

日々寧き一人暮らしや年惜しむ  
能楽堂門に黄葉の吹き寄する  
天地のあはひに黒き山眠る  
参道へ起点の石碑山眠る  
フェリーはや沖となりたる寒灯  
棟上の太梁高く冬晴るる  
園丁の枯蔓抱きて運び来し  
年惜しむ昔のドラマ見直して  
ポインセチア百七歳の誕生日  
オルガンの堂に響もすクリスマス  
裸木の抽んでて立つ北正門

はく子  
なつき  
むべ  
ぽんこ

素秀  
素秀

なつき

こすもす

わかば

む

素秀  
素秀

毎週句会秀句・みのる選・一〇二二年一二月二十五日